



注目作家紹介プログラム チャンネル16「松元悠 夢」関連  
こどものイベント

## 「彫らない版画 夢のリトグラフ」

- 開催日時：2025年5月25日(日) 13:30～15:30
- 講師：松元悠氏(版画家・美術家)
- 制作補助：下村 菜由氏(版画家)
- 参加者：こども14名、保護者10名
- 対象：小学1年生～高校生
- 場所：アトリエ1, 2

■概要  
チャンネル展出品作家の松元悠(まつもと・はるか)さんをお迎えし、展覧会を鑑賞した後、「夢」をテーマに彫らない版画に挑戦しました。

### ■1 オリエンテーションと展覧会鑑賞

チャンネル展を担当した武澤学芸員から展覧会、そして松元悠さんの紹介がありました。松元さんは学生時代から版画を学び、新聞に載るような社会的事件をテーマに作品制作をされています。展示室では、松元さんの版画作品のほか、実際に使用されたアルミ版も展示されており、一枚の作品が複数枚の色版によって構成されていることを教えてくださいました。また、「実際に事件の現場に行き、そのとき自分の目で見たものを描くようにしている」と作品制作に対する姿勢のお話もありました。



展示室にて松元さんのトーク

### ◇参加者の感想(※原文をそのまま紹介)

- ・ただ、えをかきただけではなく、はじめてのはんがをして、こんなえのかきかたがあるんだとした(小2)
- ・なにをしようかなってどきどきしたり、えをかいたのが大のおもいになりました(小1)
- ・こどもと一緒に取り組めて、とても楽しかったです。他の方の作品も見ることができて、図工の時間を思い出し、楽しいひと時でした。(保護者)
- ・出展作家さんに直接お話を伺えることが、とても楽しかったです。ありがとうございました。(保護者)

### ■2 夢のリトグラフの版づくり

展覧会を鑑賞したあとは、リトグラフ制作です！今回の制作テーマは松元さんの展覧会タイトルと同じ「夢」。眠ったときに見る夢、将来の夢、夢のような〇〇など、参加者それぞれが思い描く「夢」の世界を作品に表現しました。

今回はA5サイズの木板(木版)にソリッドマーカーという油性ペンを使って描画を行いました。画面に溢れんばかりのお菓子や果物の絵、胴着姿でメダルを首から掛けている自画像など、個性豊かな絵が完成しました。木版に絵が描けたら、版にアラビアゴム液を塗布して乾燥。いよいよ印刷作業です！



木版に絵を描く様子

### ■3 彫らない版画の制作

まずは水を含ませたスポンジで版を湿らせ、ローラーで黒インクをのせていきます。この工程を3度ほど繰り返すと、版にしっかりインクがのって準備完了。紙に刷っていきます！印刷には、アトリエにある大きな版画用のプレス機を使用しました。はじめてプレス機を見るこどもたちも多く、慎重に、時には力いっぱいハンドルを回していました。色画用紙2枚に試し刷りを行い、その後、松元さんが持ってきてくださった版画用紙に印刷しました。

さて、刷り上がりはどうだったかな？自分の描いた絵が印刷された瞬間のうれしそうな表情が印象的でした。



大きなプレス機で印刷

### ■4 相互鑑賞、ふりかえり

楽しい時間はあっという間。アトリエには刷り上がった力作がずらりと並び、圧巻でした！最後は、みんなでお互いの作品を鑑賞したあと、出来上がった作品の紹介や、制作を通じて感じたことを発表してもらいました。「はじめて版画ができて楽しかったです」「失敗したと思ったけど、印刷してみたら上手にできていました」と感想を教えてくださいました。

松元さんから「みなさんが版画に興味を持ち、素晴らしい作品をつくってくれて嬉しかったです。私は今夜、よい夢が見られそうです」と素敵なメッセージをいただきました。作家さんを講師に招いてのスペシャル回。松元さんとの交流を楽しみながら、リトグラフという新しい技法に出会い、充実した一日となりました。



作品発表の様子

### □担当学芸員からのコメント

参加者のみなさんと一緒に、「リトグラフってなんだろう？」というところから始まったこのイベント。展覧会の鑑賞時に松元さんから投げかけられた「リトグラフって聞いたことある？」という問いかけには一同沈黙でした。その後の松元さんが放った「絶対知らないよね！」という言葉の爽やかさにはつい笑ってしまいました。0から学び、自分で描き、版を擦り、プレス機を回したみなさんは、「リトグラフとは何か」を身体で掴んでくださったと思います。将来の夢がリトグラフ作家になった人もいるのでは...などと思ってしまうほどの、皆さんの生き生きとした表情が印象的でした。(武澤学芸員)